

居住地域の環境と乳幼児を連れた親の外出行動との関係

正会員 ○ 鴛海 祐太\*  
同 小林 美紀\*\*  
同 坪田 慎介\*\*  
同 添田 昌志\*\*\*  
同 大野 隆造\*\*\*\*

育児 乳幼児 外出行動 アンケート調査

1. 研究背景・目的

近年、育児環境の変化による乳幼児の親の孤立化や育児ストレス・不安の増加が問題となっている。こうした環境の中、育児中の親たちは気分転換のために外出したいと考えており<sup>1)</sup>、外出行動を支援する地域環境を整備することの重要性が認識されつつある。そこで、本研究では乳幼児を連れた親の外出行動に関わる地域の環境要因を考察していく。物理的環境の異なる地域でアンケート調査を実施し、選択される外出先やルートの特徴を把握する事を目的とする。

2. 調査概要

本研究では、表1に示すように物理的環境の異なる都内4地区を調査対象地とし、0歳から3歳までの子どもを持つ親に対してアンケート調査を実施した。アンケートは手渡しで配布し、後日郵送にて回収を行った。調査概要は表2の通り。

3. 結果・考察

3-1. 外出先の傾向 まず、アンケート回答者が多く挙げた外出先を集計し、南千住での利用率が高い場所順に並べた(図1)。食料品や子ども用品等を購入する「スーパー」「薬局」、また「公園」等は、地区に関わらず利用率が高い。特に公園に着目すると、南千住では10ha以上の大規模公園の利用率が高く、他の3地区では近所に点在する1ha未満の小規模公園の利用率が高い等、地区によって利用される公園の規模が異なる。また、公園は空間の作られ方によっても利用のされ方に違いが見られ、例えばベンチやテーブル、遊具等がある公園は、「お友達と昼食を食べながら子どもたちを遊ばせる」等、長時間友人や子どもと過ごす場所として利用されている。芝生や遊歩道等が整備され、四季折々の植栽等も施されている公園は「公園内を子どもと散歩」「ベビーカーから子どもを降ろし、のびのび歩かせる」「のんびりした気持ちになれる」等、移動を楽しむ場所、長居できる場所として利用されている。

さらに、荒川・町屋では商店街の利用率が高い。「店先で精算出来るので便利」という回答が見られるように、子どもを自転車に乗せたままでの利用も多く、「近所のスーパーは(EVやエスカレータの未整備、通路幅が狭い等)ベビーカーでは入りづらい」ため商店街を利用するという回答者もいる。さらに商店街では、「お店の人が子どもに声をかけてくれるのでうれしい」といった地域住民との交流も生じている。

一方、外出先の未整備に対する不満として、三軒茶屋では「授乳室・ベビーカーで入れるトイレが少ない」、荒川区の2地区では「ベビーカーで入りやすいカフェやお店が欲しい」等、ベビーカー利用者の回答が多く見られる。

3-2. 移動手段 図2に、外出時の移動手段を示す。0~3歳児全体では、ベビーカー(50%)と自転車(22%)で約8割を占める。年齢別に見ると、0~1歳児ではベビーカーでの

表1: 調査対象地域

対象地	地区	特徴
世田谷区世田谷地域 面積: 12.333km <sup>2</sup> 総人口: 229,097人 0~4歳児人口: 8,249人 (R21.11.1現在 住民基本台帳より)	三軒茶屋	小規模戸建・木造アパートが密集 駅周辺には商業施設が面的に広がる 東部に世田谷公園がある
	経堂・駒沢	低層戸建・集合住宅が多い閑静な住宅地 駅前には商業施設が集積 周辺に公園や大学などあり、ゆとりある土地利用
荒川区 面積: 10.20km <sup>2</sup> 総人口: 186,912人 0~4歳児人口: 7,448人 (R21.11.1現在 住民基本台帳より)	荒川・町屋	住工が混在する木造密集市街地 幹線道路沿いは近年高層マンション建設が進行 地域内に多数の商店街がある
	南千住	駅東側は再開発により中高層住宅が立ち並ぶ 駅前には大型商業施設がある 隅田川沿いに汐入公園がある

表2: アンケート調査概要

アンケート調査(2009年11月~12月実施)	
名称	乳幼児を連れた親の外出行動に関する調査
対象	0~3歳児の子を持つ親
方法	乳幼児健診・子育て支援施設にきた保護者に対し、アンケートを手渡しで配布
調査項目	基本属性: 保護者の年齢・性別・家族構成・仕事の有無・居住年数 など
	外出: 外出先の名称と外出目的、外出先までの移動手段、移動時間
	外出先までの道に関するコメント、地図上に外出行動を記入 など
	自由記述: 外出する環境として居住地域をどう思うか
回収結果 (回収数/配布数)	世田谷区世田谷地域: 28/200 (SS14部 SK14部) 回収率14.0% 荒川区: 55/402 (AA25部 AM30部) 回収率13.7%

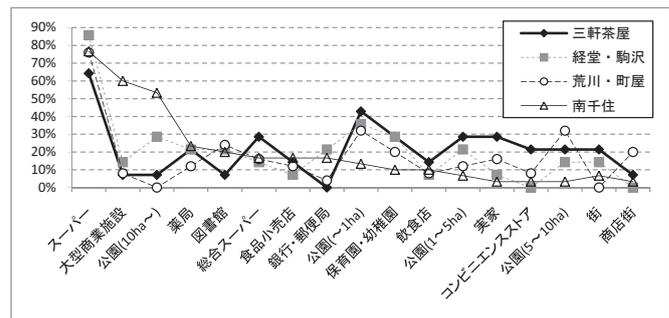


図1: 外出先の利用率

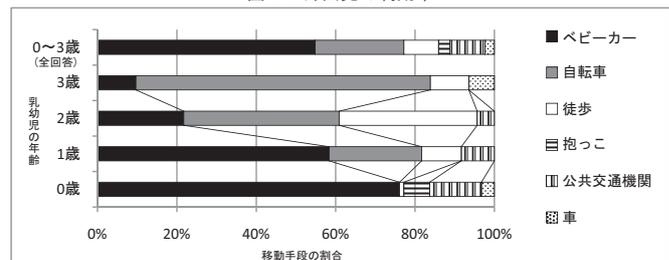


図2: 移動手段

移動が多く、2歳児以降では自転車や徒歩の占める割合が増加する等、移動手段に変化が見られる。

3-3. 選択されるルートの特徴 2名以上の回答者が描いた外出ルートを流量別に示した(図3・図4)。図の右下にはルートに関するコメントから得られた外出ルートの特徴を示している。図より、道幅や歩車分離・交通量等の安全性や移動のしやすさに対するコメントが多く見られる。地区別に見ていくと、南千住では「歩道が広くて歩きやすい」と評価されたルートが利用されている。また、幅の広い歩道は「友人と一緒に歩ける」という点からも評価されている。他の地区では、

「歩道が狭くて危険」「路面がデコボコ」とコメントされており、安全で移動しやすい環境の整備が求められていると言える。

機能面以外の環境要因としては自然要素が多く挙げられ、「緑道沿いは気持ち良い」「隅田川沿いは散歩にぴったり」等、移動中に感じる快適性がルート選択理由になっている。また、「商店街は子どもに刺激になる」「電車を見て子どもは大喜び」等、子どもが喜ぶ場所を求めてルートを選択するという理由も見られる。このように、外出ルートは機能面だけでなく快適性や子どもの視点からも選択されている事が分かる。

**3-4. 外出行動の類型とその特徴** 前節で把握したルートの捉え方の違いに着目し、外出行動を「通過路型」と「散策路型」の2種に分類した(表3)。ルートに関するコメントが機能面のみの場合には通過路型とし、快適性や子どもが喜ぶ場所を巡るなどのコメントをしている場合は散策路型として分類した結果、30名から散策路型のデータが得られた。移動手段は28名が徒歩(ベビーカー、抱っこ、徒歩)であった。

散策路型ルートの特徴を表4に示す。以下、これらのルートの持つ意味について考察する。

**■自然要素のあるルート:** 緑道や並木道、川沿いの遊歩道等は、「景色が良い」「気持ち良い」というコメントから、親の気分を和ませる場として評価されている。また、子どもと「魚や小鳥を見たり」「ゆっくり散歩」等のコメントも見られ、子どもが喜び、安全に歩かせられるルートとしても活用されている。

**■子どもが喜ぶ対象のあるルート:** 電車や路面に描かれた昆虫の絵等が見られるルートは、「子どもは毎回大喜び」等のコメントから、子どもが喜ぶ環境である事が分かる。

**■友人と並んで喋りながら歩けるルート:** 「友人としゃべりながら」「友人と一緒に歩ける」等のコメントから、ベビーカーを押しながら友人と並んで歩くことのできるルートが散策路型となっている。再開発地の南千住では、幅の広い歩道が整備されているためそのような環境が整っているが、他の既成市街地では歩道が整備されていないルートも多い。その代り、「車の少ない道を通って友人と帰る」等、交通量の少ない裏道や住宅街を代替ルートとして活用している事例が見られる。

**■親子で楽しめる商店街:** 「新しいお店を探してみたり」「立ち寄るだけで楽しい」等、親の気分転換の場である事が分かる。これは、雑貨屋やカフェ等親の関心を引き出す場が街中や商店街の中に点在している事によるものと考えられる。また、商店街は「子どもに声をかけてくれるのでうれしい」「子どもの刺激になる」等、子どもが喜ぶ場としても捉えられている。

以上より、ルート上に子どもが喜ぶ対象や自然要素等の親の気分を和ませる対象を配する事、安全に子どもを歩かせられる事、友人と並んで歩ける事が、散策路型的外出行動に寄与すると推察される。表4より、既成市街地の三軒茶屋では自然要素や商店街、街中等、様々な特徴を持つ多様なルート環境が提供されている事が確認できる。一方、再開発地の南千住では自然要素のあるルートと幅の広い歩道にほぼ集中しており、ルート環境の多様性に欠けている事が指摘できる。

**4. まとめ**

本研究では、乳幼児を連れた親が外出する際に選択する外出先やルートの特徴を居住地域ごとに把握した。

\*九州旅客鉄道 修士(工学)  
 \*\*東京工業大学 研究員 博士(工学)  
 \*\*\*LLP 人間環境デザイン研究所 博士(工学)  
 \*\*\*\*東京工業大学大学院総合理工学研究科 教授・工学博士

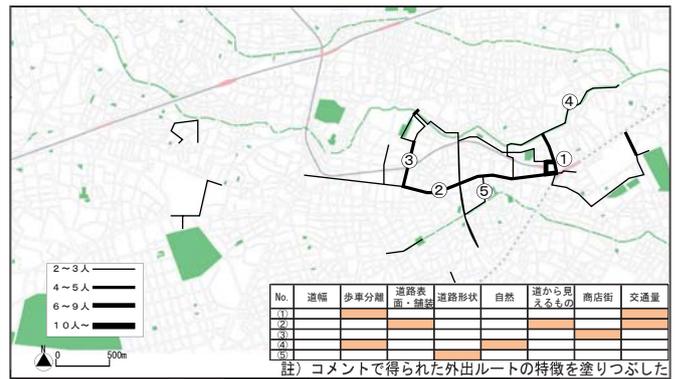


図3: ルートの流量と特徴(世田谷地域)

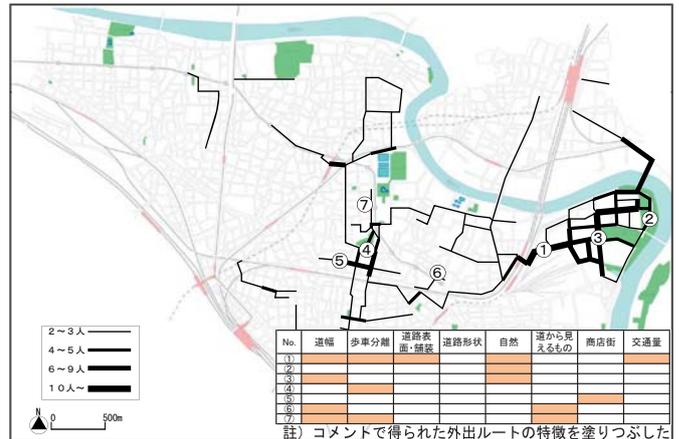


図4: ルートの流量と特徴(荒川区)

表3: 通過路型と散策路型

	通過路型	散策路型
コメント例	歩道があるので安全、道幅が広い、路面が歩きにくい	隅田川沿いは散歩にぴったり、電車を見て子どもは大喜び、立ち寄るだけで楽しい
三軒茶屋	8名	6名
経堂・駒沢	9名	5名
荒川・町屋	19名	6名
南千住	17名	13名
全回答者(83名)	53名	30名

表4: 散策路型ルートの特徴

	ルートの特徴 (人数)										
	犬・昆虫の絵が見られる道	電車がみられる道	並木道	公園内	川沿いの遊歩道	緑道	幅の広い歩道	裏道・住宅街	商店街	街中	社寺のある道
三軒茶屋	1	1			1	4	2	2	3	2	
経堂・駒沢						1	3	2	2	1	
荒川・町屋	2	3			1	1	3	1	2	2	
南千住			6		2	5	7	2	1	1	

**緑道**

四季が感じられて気持ち良い  
緑道は川があり、魚を見たり鳥を見たりして休憩

**川沿いの遊歩道**

隅田川沿いは散歩にぴったり  
景色が良い

**電車がみられる道**

電車が来たら子どもと一緒に手を振ったり  
子どもは大喜び

**昆虫の絵が見られる道**

昆虫の絵が描かれていて  
子どもは毎回大喜び

**商店街**

子どもの刺激になる  
色々なジャンルのお店があり、立ち寄るだけで楽しい

**街中**

新しいお店を探してみたり  
誰かお友達に会わないかなあと思いながらあてもなくブラブラ

**幅の広い歩道**

歩道が広いので友人としゃべりながら歩ける

**裏道・住宅街**

交通量・人通りの少ない道を  
通って友人と帰る  
車の少ない住宅街をゆっくり歩いて帰る

今後、計画的に整備された地域では多様な環境を構築し幅広い選択肢を提供していく事、既成市街地では安全で移動しやすい環境を整備していく事が、外出行動をより快適にしていくものとする。

<参考文献>

1) 財団法人子ども未来財団: 子育て中の母親の外出時等に関するアンケート調査(抜粋), 2004, 12